

福岡市基本計画（素案）

第2章 計画各論

3 区の目標

第3回部会資料

3 区の目標

<東 区>

1 東区の目標

すみやすい、あんしんなまち・東区

～海と緑と歴史を感じ、新しい魅力を生み出す、住みやすいまちづくりをめざして～

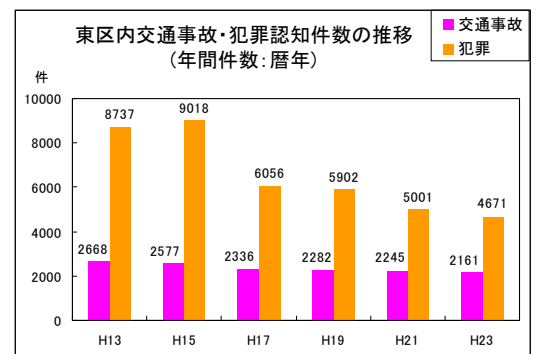
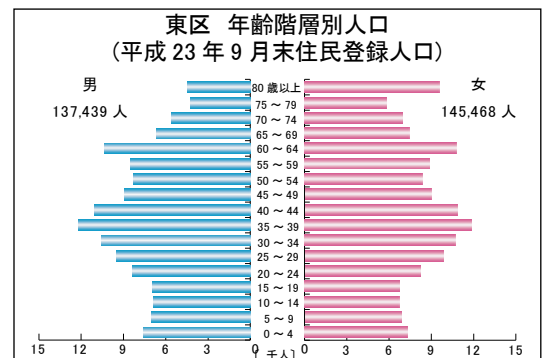
- 安全で安心して暮らせるまち
- 子どもが健やかに育つまち
- 人を大切にし、みんなが生き活きと活躍できるまち
- 多彩な魅力にあふれ、環境と共生するまち

2 区の概要

- 福岡市の東部に位置し、北は糟屋郡新宮町に、東は糟屋郡久山町、粕屋町に、南は福岡市博多区に隣接しています。
- 市内で最大の人口（約30万人）を擁し、博多湾東部水域を囲む弓形の形状となっています。
- 志賀島は、国宝金印「漢委奴国王」の発見や、古代に大陸との交易で活躍した海の民「阿曇族」に関する歴史的遺産があります。また、舞松原、宮前などの古墳、名島城、立花城などの城址、香椎宮、宮崎宮をはじめとする神社・仏閣が多く残っています。
- 玄海国定公園に指定されている志賀島、海の中道、渡り鳥の飛来地として有名な和白干潟、シロウオが遡上し、絶滅危惧種クロツラヘラサギが越冬する多々良川、緑豊かな立花山、三日月山など自然の魅力にあふれています。
- 九州大学、福岡女子大学、九州産業大学、九州造形短期大学、福岡工業大学など、特徴のある多くの大学・短期大学が立地しています。

3 現状と課題

- 集中豪雨による水害を経験し、また、東日本大震災からの復興が進むなか、地域における防災意識も高まっており、災害発生時の助け合いの仕組みづくりなど、地域における防災力を充実していく必要があります。
- 犯罪や交通事故の発生件数は減少傾向にありますが、より暮らしやすいまちづくりの実現のため、地域防犯力の向上や交通ルール・マナーが守られるまちづくりを地域と行政が共働して進めていく必要があります。
- 東区内のスムーズな交通ネットワーク整備を進めるとともに、高齢化や自転車利用の増加に伴い、車いす利用者、歩行者、自転車利用者それぞれが安全に利用できる環境づくりが求められています。
- 多くの子育て世代が暮らす東区では、子育て家庭の孤立化や児童虐待の予防・早期発見への取組みが求められています。また、高齢化の進展により、介護や健康づくり、コミュニティの維持、公共交通機関の確保などの課題が生じています。
- アイランドシティや香椎駅周辺土地区画整理事業など、新しいまちづくりも進んでいます。



4 まちづくりの方向性

○安全で安心して暮らせるまち

災害、犯罪や交通事故などに対して、市民が「あんぜん」「あんしん」に暮らしやすいまちづくりを進めるため、地域における防犯や防災への活動や仕組みづくりを支援するとともに、みんなが気持ちよく暮らせるためのモラル・マナーの向上に取り組んでいきます。

また、交通ネットワークを整備して区内や区域外へも移動しやすい便利なまちづくりに取り組むとともに、人、自転車などが安全に利用できる環境の整備を進めます。

○子どもが健やかに育つまち

子育て家庭の孤立化や児童虐待の予防・早期発見のため、地域における見守りなどの子育て支援を進めるとともに、子どもが安心して遊べる環境づくりやスポーツなどの新しい体験ができる機会を提供します。

○人を大切にし、みんなが生き生きと活躍できるまち

人と人をつなぐ自治協議会などの地域活動を支援するとともに、NPO・ボランティア、大学、企業、行政などさまざまな主体が、地域の課題を解決するために知恵を出しあい、地域が主体的に共働のまちづくりに取り組み、ひとが「つながり、さんかする」まちづくりを進めます。

○多彩な魅力にあふれ、環境と共生するまち

東区のシンボルとなる行事や歴史・文化的な資産の魅力を磨き、海・川・山の水辺や緑などの自然環境を守り、これら地域の魅力、特色を活かしたまちづくりを進めます。

千早駅・香椎駅周辺では、東部広域拠点の形成に取り組むとともに、新東市民センターを核とする公共施設を整備し、にぎわいにあふれ、多くの人がかかれ、文化芸術を感じられるまちづくりを進めます。

アイランドシティでは、福岡市の活力創造拠点として、新しい魅力・活力を生み出すまちづくりを進めます。また、将来、九州大学箱崎キャンパスが移転した後のまちづくりにも取り組みます。

区の地図（現在調整中）

<博多区>

1 博多区の目標

お互いが支え合い、安心して人が暮らし、歴史と伝統が息づくまち

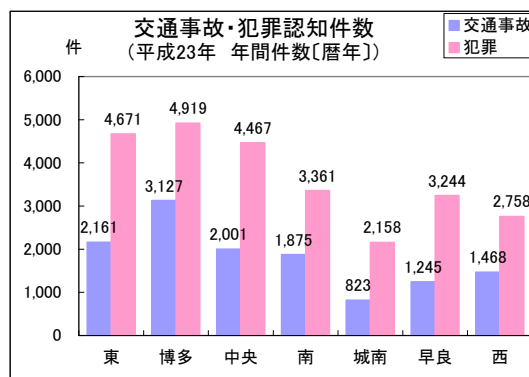
- お互いが支え合い、交流し、健やかに暮らせるまち
- 安全で安心して暮らせるまち
- 歴史と伝統を活かしたにぎわいのあるまち

2 区の概要

- 博多区は市の中心部から南東部に位置し、南北に長く、区の西側に那珂川、中央に御笠川が流れ、福岡空港の東には東平尾公園などの丘陵地が広がっています。
- 面積は31.47 km²（7区中4番）、人口は212,527人〔平成22年10月国勢調査〕（7区中3番）であり、前回国勢調査からの人口の増加率は約8.6%と7区中1番となっています。
- 博多区は事業所数が7区中最も多く、博多駅周辺にその半数が集積しています。
- ウォーターフロント地区の会議・展示施設、博多駅周辺の複合商業施設、東平尾公園のスポーツ施設など多くの集客交流施設が立地しています。
- 主要な幹線道路に加え、市営地下鉄、JR鹿児島本線、西鉄天神大牟田線が走り、雑餉隈駅周辺では連続立体交差事業が行われ、また、地下鉄七隈線の天神南～博多間の延伸事業が進んでいます。
- 博多の総鎮守の櫛田神社、日本最初の禅寺といわれる聖福寺、うどん・そば・饅頭発祥の地とされる承天寺、空海が日本で初めて建立した密教寺院である東長寺などの神社・仏閣、また、最古の稲作集落跡のひとつである板付遺跡や弥生時代の甕棺（かめかん）を発見されたままの状態で開催している金隈遺跡など文化財も豊富です。
- 博多祇園山笠や博多松囃子など伝統的な祭りや文化も豊かで、地域の生活にとけ込み受け継がれています。

3 現状と課題

- 都心部では単身世帯が増加し、居住者の移動が多いことから、地域の昔ながらの連帯感が薄れつつあります。これまでも、地域と連携して魅力づくり活動などに取り組んできましたが、引き続き住民のまちづくり活動への参加を促し、コミュニティの活性化を図る必要があります。
- 全市的に少子化、高齢化が一段と進み、児童虐待や高齢者の孤立化などが深刻となっています。お互いが支え合い、みんなが健やかに安心して生活できるまちづくりを進める必要があります。また、厳しい経済情勢の中、若年層も含め雇用問題が深刻となっています。
- 集中豪雨や地震など災害への対応として、防災・危機管理体制の強化を急ぐ必要があります。また、犯罪・交通事故の発生件数や都市部及び駅周辺を中心として放置自転車数が多いことから、対策の強化が必要となっています。
- 福岡市の陸・海・空の玄関口を擁し、多くの神社、仏閣や遺跡などがあり、地域の生活にとけ込んだ全国有数の伝統ある祭りも盛んであることから国内外からの来街者が多く、歴史と伝統を活かした地域の魅力づくりや集客機能の強化が課題です。



4 まちづくりの方向性

○お互いが支え合い、交流し、健やかに暮らせるまち

地域住民、ボランティア、企業、NPO、行政などが一体となり、お互いを思いやり、温かく支え合う活発なコミュニティづくりを進めます。

地域の支え合いを軸に、子どもや高齢者、障がいのある人の見守りが行われるなど、子どもが健やかに成長し、全ての人が、住み慣れた地域でいつまでも安心して生活できる環境づくりを進めます。また、就労支援など、生活の安定に向けた取り組みも進めます。

みんなが自分に合ったスポーツ・レクリエーションを気軽に楽しみ、健康に暮らせるまちづくりを進めます。

○安全で安心して暮らせるまち

高齢者や障がいのある人をはじめ全ての人が快適に日常の活動や生活ができるユニバーサルデザインによるまちづくりをめざします。

河川改修や雨水管整備など、災害に強い都市基盤の整備とともに、浸水、地震、竜巻などさまざまな自然災害に対する地域の自主防災活動を支援します。

市民、地域、警察、行政が連携し、交通マナーや自転車利用、喫煙などに関するモラル・マナーの向上をめざすとともに、夜間照明の充実や自主防犯活動の支援など、事故や犯罪が少ない安全なまちづくりを進めます。

市民、地域、企業が一体となって、緑豊かな環境や水辺環境を守るとともに、ごみの排出抑制やリサイクル活動の推進などにより環境にやさしいまちづくりを進めます。

○歴史と伝統を活かしたにぎわいのあるまち

歴史的景観を有する寺社等の資源を活かした道路整備などのまちづくりを地域と連携して進めるとともに、地域・企業と一体となったイベントの開催等によって歴史や伝統の魅力を広く発信し、集客力や回遊性を高めていきます。

また、古くから伝わる博多祇園山笠や博多松囃子など、地域の伝統行事について、若い世代への継承や活気を保ち続ける取り組みを進めその振興を図ります。

博多駅、博多港、福岡空港は福岡・九州の玄関口として、訪れた人をひきつけ、安全・快適に利用できるよう、魅力的な整備と利便性の向上を図ります。



<中央区>

1 中央区の目標

人が集い、人が輝き、人がやさしいまち「中央区」
～にぎわい・元気・安心がつながるまちをめざして～

- 自然、歴史、地域の魅力を活かした、にぎわいのあるまち
- 思いやりの心で人がつながり、元気に暮らせるまち
- 誰もが安心して暮らせるまち

2 区の概要

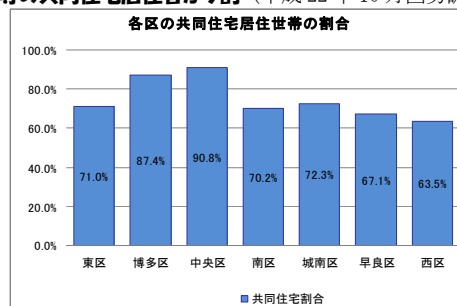
- 中央区は東に那珂川、西に樋井川が流れ、北は広大な博多湾、南は標高約100mの鴻巣山というように、水と緑に囲まれた地域です。面積は約15k㎡と7区で最も小さく全市に占める割合は4.4%となっています。
- 人口は1995年まではほぼ横ばい(約14万人)で推移していましたが、1995年以降、市外あるいは市内他区からの転入が増え、2010年には、17.8万人に増加しています。人口密度は7区で最も高く、2010年で約12,000人/k㎡です。
- 単身世帯は、全世帯の約6割に上がっており、博多区に次いで高い割合となっています。生産年齢人口の割合は7区で最も高く、一方15歳未満の年少人口及び65歳以上の高齢者人口の割合は、7区で最も低い状況です。また9歳以下の年代を除き、各年代層とも女性の人口が男性を上回っており、特に20代、30代の女性が多いという特徴が見られます。
- 九州、福岡における屈指の商業集積地である天神を擁し、百貨店をはじめ専門店など数多くの商業施設が立地しており、こうした集積を背景に小売業は市内最大の販売額を誇っています。
- 鴻臚館跡、福岡城跡、幕末の勤王歌人野村望東尼の平尾山荘など歴史にふれあえる場所が身近にあります。

3 現状と課題

- 都心部のにぎわいを創出するため、地域の住民・企業等との共働によりまちづくりを進める必要があります。九州新幹線鹿児島ルート全線開通等により来街者が増加しており、にぎわいの創出とともに都心部の回遊性の向上が課題となっています。また、数多く存在する歴史・文化資源が市民等に十分に知られておらず、まちの資源として有効に活用していく必要があります。

■ マンション等の共同住宅居住者が9割 (平成22年10月国勢調査)

- 中央区は約9割の住民がマンション等の共同住宅の居住者で、人口の流動も大きいことから、地域コミュニティの希薄化や地域の中で子育て家庭の孤立化などが懸念されており、地域コミュニティの形成支援や子育て支援に関する施策の充実が必要となっています。



- 放置自転車については、駐輪場の整備や撤去による効果でかなり改善されてきていますが、人と自転車の共生をめざし、今後も継続して取組みを進める必要があります。また、交通事故件数のうち自転車事故の占める割合は、中央区が全市で一番高く、自転車の歩道における安全走行が課題となっています。さらには、都心部であるがゆえにひったくりや落書きなどの犯罪が増加しています。

4 まちづくりの方向性

○自然、歴史、地域の魅力を活かした、にぎわいのあるまち

本市の活力の源である都心部において、地域の住民や企業と共働して、活気あふれるまちのにぎわいづくりや、景観・環境美化活動に取り組むとともに、回遊性の向上など、都市の価値や魅力を高めるまちづくりを進めます。

また、市民の憩いの場である舞鶴公園については、鴻臚館跡や福岡城跡の貴重な史跡をランドマークとした魅力づくりを進めるとともに、そのほかの歴史、文化、食など、地域の魅力ある資源を、観光資源として十分に活用するなど、人をひきつけるまちづくりを進めます。

- ・都心部エリアマネジメントの推進
- ・都心部(天神・博多駅地区)の回遊性の向上
- ・歴史、文化資源などを活用したまちの魅力づくり
- ・九州大学移転跡地のまちづくりの推進

○思いやりの心で人がつながり、元気に暮らせるまち

地域の人々がお互いに支え合い、助け合いながら、行政やコミュニティ・NPO・ボランティアなどとの共働を通じて、主体的に地域づくりに取り組めるような活動支援を進めます。

また、地域での子どもの見守りを充実させ、安心して子どもを生み育てることができる環境づくりを進めるとともに、個性や価値観などの違いを理解し、誰もがいきいきと元気に暮らせる取組みを進めます。

- ・コミュニティ活動の支援
- ・子育て支援の充実
- ・障がいのある人や高齢者の福祉の増進
- ・こころとからだの健康づくり
- ・人権尊重のまちづくり

○誰もが安心して暮らせるまち

自転車の放置や事故件数の多い天神地区等において、地域住民、事業者などと共働して、自転車の放置防止や適正利用を推進し、「乗りやすい・とめやすい・歩きやすい」人と自転車が共生できるまちづくりを進めます。

また、地域住民の防犯意識の高揚と地域の自主防犯活動に対する支援を行い、犯罪が起これにくい環境づくりを進めるとともに、災害時に備えた地域自主防災組織の活動の支援など災害対策の取組みを進めます。

- ・自転車対策の推進
- ・犯罪や交通事故のないまちづくり
- ・災害に強いまちづくり
- ・食とくらしの安全、安心の推進



<南区>

1 南区の目標

いきいき南区 暮らしのまち

～身近な自然とふれあい みんながつながり支え合う～

- 人のつながりや交流を大切にし、地域で支え合い助け合う、住民が主役のまち
- みんなにやさしく、安全で安心して住み続けられるまち
- 川やため池、里山などの身近な自然とふれあえる、うるおいとやすらぎのあるまち
- 大学や周辺地域との連携・交流、文化活動などが盛んで、活気あふれるまち

2 区の概要

- 昭和 47 年政令指定都市の発足と同時に誕生した南区は、福岡市の南部に位置し、博多区や城南区、中央区、早良区の 4 つの行政区のほか、春日市や那珂川町とも接しています。
- 面積は 7 区中 5 番目 (30.98 k m²、全市の 9.1%) ですが、人口は東区に次いで 2 番目に多く (平成 22 年 10 月 1 日国勢調査結果：247,096 人、全市の 16.9%)、また、昼間人口に比べて夜間人口が多い「暮らしのまち」です。
- 南西にそびえる油山や南北に流れる那珂川、鴻巣山などの身近な自然環境に恵まれています。また、野多目大池をはじめ 56 箇所ある「ため池」は南区の大きな特色となっています。
- 全体的に丘陵地で坂が多く、谷間の部分に道路がつくられまちが発展してきました。昭和 30 年代半ば以降に急速に住宅開発が進められ、閑静な戸建て住宅や大規模団地が区内全域に広がっています。また、7 つの特色ある大学・短大が立地する文教地区でもあります。

3 現状と課題

- 人口は、近年はほぼ横這いで、今後も 2022 年まではほぼ横這いで推移すると予測されます。また、少子化、高齢化がさらに進行して、2022 年には 65 歳以上の人の割合が 4 人にひとりになると予測されます。
- 近年、全国的に地震や集中豪雨などの自然災害が増加しており、住民による主体的な防災・防犯への取組みの充実などが一層大切になっていますが、非常時に有効に機能する仕組みの構築や担い手の育成、確保などの課題があります。
- 西鉄天神大牟田線から離れている区の西南部地域では、バスが主要な公共交通機関となっていますが、路線網や運行本数の充実など利便性の向上が求められています。また、丘陵地で坂が多く、バスが通ることができない狭い道路も多く、高齢化が進行する中で地域を循環するバスの導入などの対応策が求められています。



4 まちづくりの方向性

○人のつながりや交流を大切に、地域で支え合い助け合う、住民が主役のまち

南区は、地域活動や交流活動が盛んな「人」が財産のまちです。暮らしの中でいちばん身近な地域コミュニティを支える人や組織、ネットワークづくりの支援、公民館をはじめとする活動の場づくり、地域の支え合いによる子育てや高齢者への支援、すべての人の健康づくりと福祉の向上など、住民が主役のまちづくりを進めます。

- ・まちづくりの担い手や活動の場づくりの支援
- ・子どもを見守り育む仕組みや環境づくり
- ・高齢者をはじめすべての人の健康づくりと福祉の向上

○みんなにやさしい、安全で安心して住み続けられるまち

安全・安心は、健やかで心豊かな暮らしの基本です。交通安全や、防犯・防災の取組み、暮らしの中の安全・安心やモラル・マナーの向上など、人にも環境にもやさしいまちづくりを進めます。

- ・住民の主体的な取組みによる安全・安心なまちづくり
- ・人にやさしいまちづくり
- ・公共交通や自転車などの移動手段の利便性向上

○川やため池、里山などの身近な自然とふれあえる、うるおいとやすらぎのあるまち

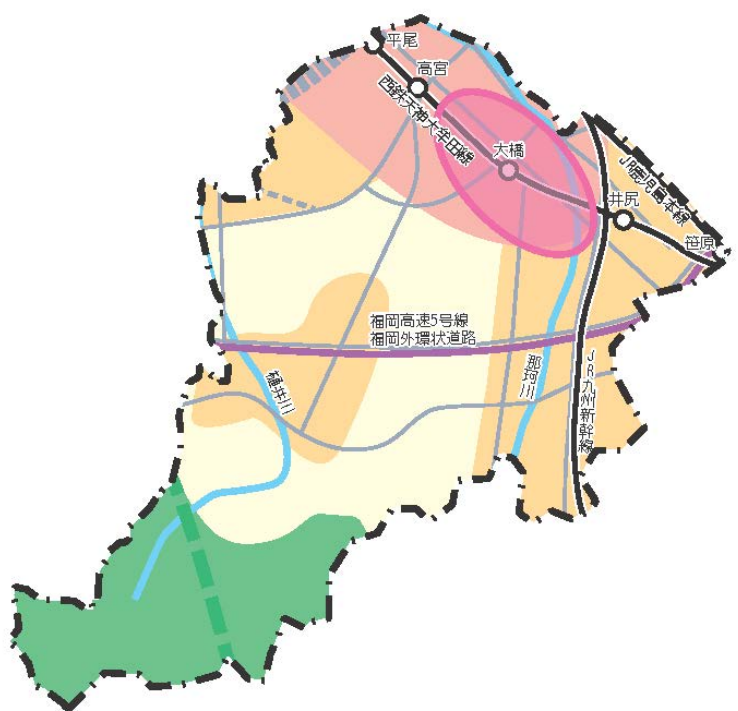
那珂川河畔やため池などの水辺や、油山や鴻巣山などの身近な自然に親しみ楽しむ環境づくりを、多様な生物の生息・生育などに配慮しながら、住民主体で進めます。

- ・河畔やため池などの「水辺」のオアシスづくり
- ・里山などの身近な自然を守り育てる「緑」のまちづくり

○大学や周辺地域との連携・交流、文化活動などが盛んで、活気あふれるまち

南区にある大学・短大の持つ情報や専門的知識などを住民の暮らしに活かす取組みや、行政区域を越えた住民同士の交流などを進め、活気にあふれるまちをめざします。

- ・大学の集積を活かしたまちづくりの推進
- ・周辺地域との交流や連携の強化
- ・文化を活かしたまちづくりの推進



<城南区>

1 城南区の目標

豊かな暮らしがあるまち・城南区

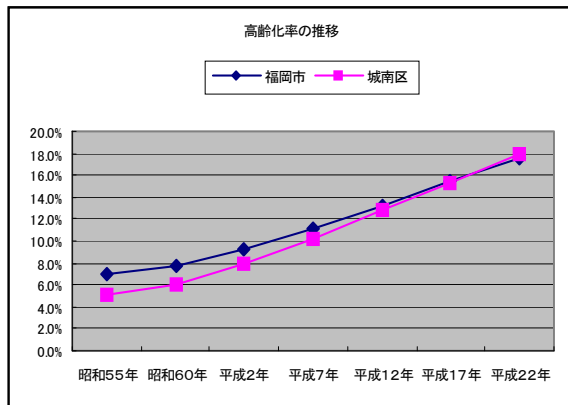
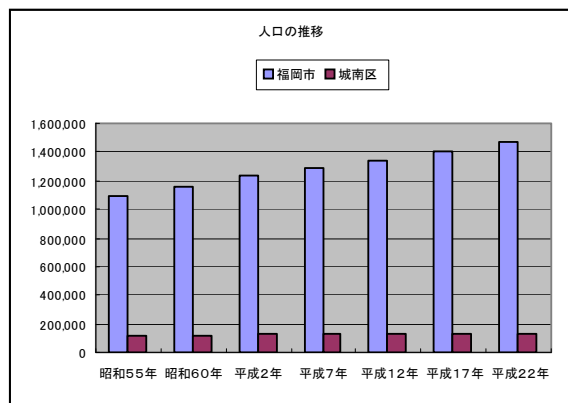
- 安全で安心して暮らせるまち
- 地域で支えあう、ぬくもりのあるまち
- 地域に開かれた大学のあるまち
- 自然環境を大切にするまち

2 区の概要

- 市内のほぼ中央に位置し都心に近い城南区は、面積は約16km²で中央区に次いで2番目に小さく、人口は最も少ない約13万人です。区内を縦貫する地下鉄七隈線や横断する福岡外環状道路及び福岡高速5号線などの整備により、交通利便性の向上が図られています。
- 北部はマンション建設などで都市化が進み、人口移動が激しい住宅街で、行政サービス機能や文化施設、学校等が集積する文教地区を形成しています。一方、南部に広がる油山や区内を南北に流れる樋井川、多くのため池など、豊かな自然環境が市街地のすぐ近くにあります。また、梅林古墳や菊池神社、友泉亭公園などの歴史的な文化資源にも恵まれています。
- 昭和30年代中頃から大規模な住宅団地が建設されるなど急速に市街地化が進んだため、市街化区域に占める住宅地の割合が高く、中央区に次いで人口密度が高い区です。近年は全市平均を上回るスピードで高齢化が進んでいます。
- 区内に福岡大学、中村学園大学の二つの大学があり、大学の公開講座開設や施設の地域利用が進められるとともに、両大学の学生は地域活動に積極的に参加するなど、まちづくりの大きな活力となっています。

3 現状と課題

- 集中豪雨による河川の氾濫や地震などの自然災害、犯罪や交通安全などへの対策について、住民の関心が高まっています。
- 少子化や高齢化の進行により、独居・閉じこもりや認知症などの高齢者問題への取り組みや、安心して子どもを生み育てられる環境づくりを進める必要があります。
- 福岡大学、中村学園大学の学生数約2万5千人は、区人口の約2割に相当し、両大学の教育・研究機能や若い学生の活力は、区の大きな資源と言えます。
- 身近にある豊かな自然環境を次世代に継承することや、住みやすい環境保全に向けた取り組みが求められています。



4 まちづくりの方向性

○安全で安心して暮らせるまち

河川の氾濫や地震などの自然災害に対する備えを充実するとともに、犯罪の防止や交通安全施設を整備するなど、安全で安心して暮らせる環境を整えます。また、市民生活における食と暮らしの安全確保や、誰もが安心して子育てできる環境の充実を図るなど、みんなにやさしいまちをめざします。

○地域で支えあう、ぬくもりのあるまち

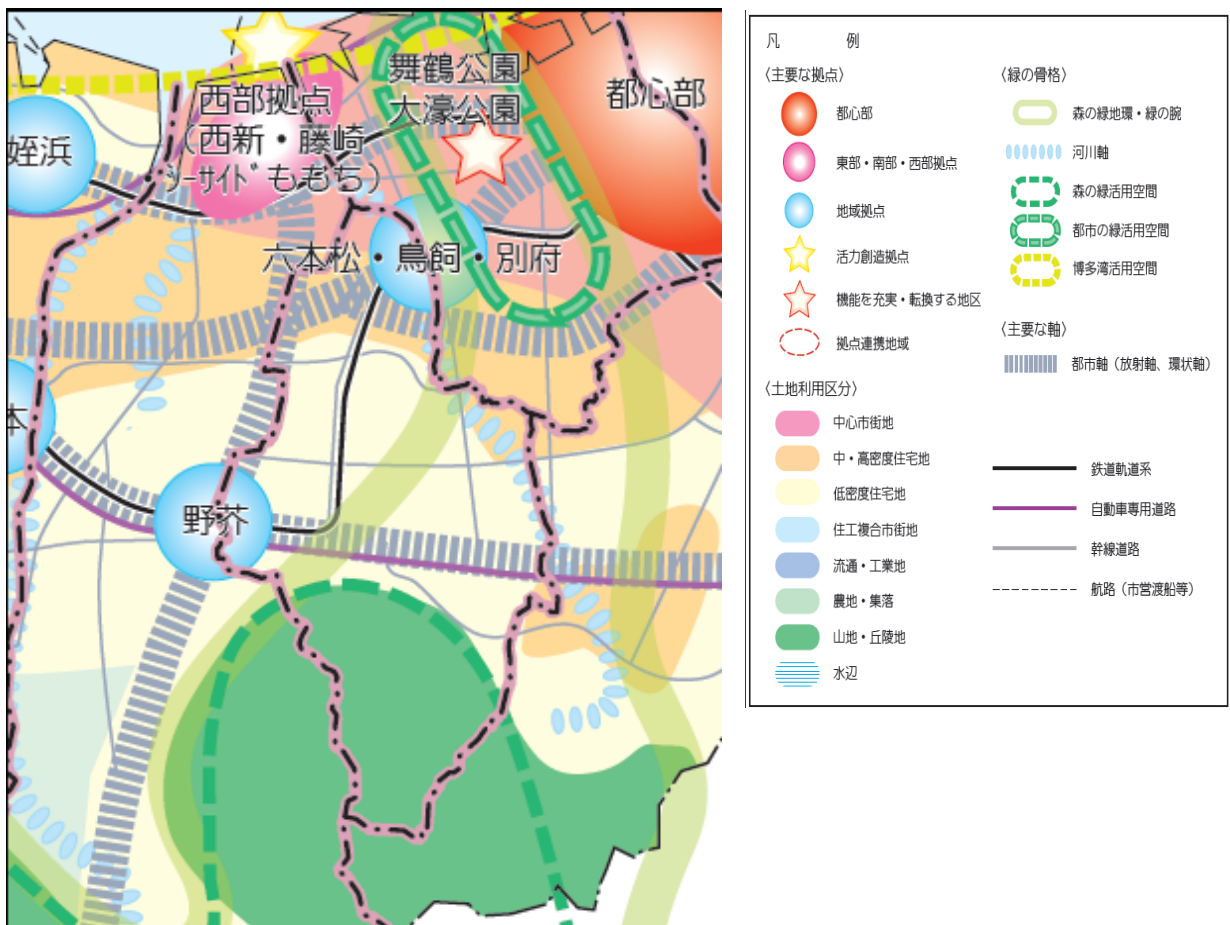
福祉や子育て、環境、まちづくり活動など、地域の課題解決に向けて取り組む自律したコミュニティ活動を支援します。また、思いやりと助け合いの心で、高齢者や障がいのある人などを支えあう体制や生きがいをもって社会活動に参加できる環境を整えます。

○地域に開かれた大学のあるまち

多様な分野で学生の新鮮な知恵と活力を生かし、地域と学生が出会い、交流し、共にまちづくりに取り組む環境やしくみを整えます。また、大学の高い教育・研究機能を地域社会に還元し、大学との交流、学生とのふれあいを通じて、地域固有の文化を醸成します。

○自然環境を大切にするまち

油山や樋井川など豊かな自然を次世代に継承するため、市民自らが自然環境を守り育てる活動などを支援します。また、自然を大切に守り育てる活動の継続により、生活の中に季節の変化を感じられる緑豊かな潤いのあるまちを形成します。



<早良区>

1 早良区の目標

～ひと・みず・みどりが光り輝く ふれあいと交流のあるまち～

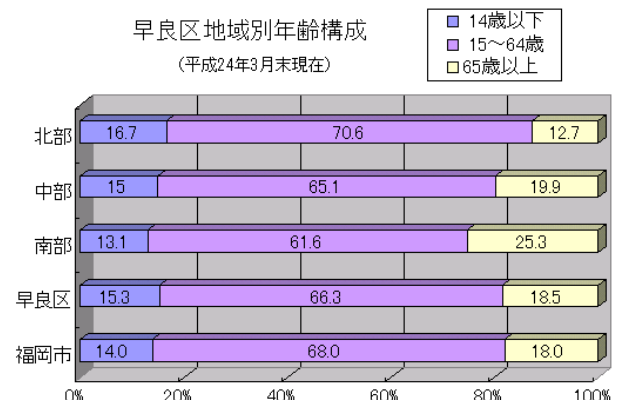
- お互いが支え合い安心して暮らせるまち
- 早良区の特性を生かした魅力あるまち
- 地域の魅力を生かしたまちづくり
 - ◆～活力と賑わいのあるまち～ 北部
 - ◆～地域の新しい拠点となるまち～ 中部
 - ◆～豊かな自然を活かした市民の憩いのまち～ 南部

2 区の概要

- 早良区は、北は博多湾に面したシーサイドももちから、南は緑豊かな脊振山系まで、南北に長く広がる地形となっており、西端には市民の憩いの場となっている室見川が流れています。また、蒙古来襲に備えて築かれた元寇防塁や黒田藩の御用窯だった高取焼など歴史的な資産が多い地域です。
- 早良区は、昭和 47 年の政令指定都市昇格に伴い設置された西区が、昭和 50 年の旧早良町との合併を経て、昭和 57 年に早良、城南、西の 3 区に分区され、誕生しました。
- 面積は 7 区のなかで最も広く約 96 k㎡、人口は、東区、南区、博多区に次いで 4 番目に多い約 21 万人です。

3 現状と課題

- 区北部の地下鉄沿線の西新・藤崎は、活気あふれる商業地域として発展を遂げ、高校、大学などの文教施設のほか、区役所、市民センター、警察署や税務署などの行政機関も多く集中している地域です。
- また、シーサイドももちでは、近代的な建物がある住宅地と博物館、総合図書館、ソフトリサーチパークや放送局などの文化・情報関連施設が集積しており、西新・藤崎とともに本市西部の拠点となっています。
- この地域は隆盛期から成熟期を迎え、一層の活性化が課題となっており、そのためには、西新、藤崎地区とシーサイドももち地区の一体感、回遊性の向上などにより、さらなる拠点形成が望まれています。
- 区中部の原や飯倉、有田などは、昭和 40 年代に大規模な住宅団地が建設され、幹線道路の沿道には商業施設や集合住宅が多く立地しています。一方で、団地住民の高齢化や人口の減少により、地域コミュニティづくりに支障を来す状況も見受けられます。
- また、野芥・賀茂・次郎丸などでは、地下鉄七隈線や福岡外環状道路、福岡都市高速道路の完成に伴い人口が増加しており、新たなまちづくりが進んでいます。
- 区中南部地域における区レベルの行政サービスを補完する施設として、地域交流センターの早急な整備が望まれています。
- 区南部地域は市内でも貴重な農業地域となってい



ます。また、脊振山系は林業地域であるとともに、野河内溪谷、花乱の滝、坊主ヶ滝など豊かな自然に恵まれ市民の憩いの場となっています。一方で、高齢化、過疎化による農林業の後継者不足のため、森林の荒廃や耕作放棄地の問題が発生しています。また、市民の日常生活に必要な移動手段である公共交通機関の維持も課題となっています。

4 まちづくりの方向性

○お互いが支え合い安心して暮らせるまち

- ・保健、福祉、子育て支援が充実し、市民がお互い支えあい健康で安心して暮らせるまち
- ・子どもが夢を持って健やかに成長するまち
- ・高齢者や障がいのある人をはじめ、すべての市民が尊重され、生きがいを持って暮らせるまち
- ・地域社会を担う人材を育成し、誰もがまちづくりに参画し、活躍できるまち
- ・まちづくりを地域コミュニティと行政が共働ですすめるまち
- ・資源を大切にした環境に優しいまち
- ・災害、危機管理に強いまち
- ・犯罪や交通事故を未然に防ぎ安全に暮らせるまち

○早良区の特性を活かした魅力あるまち

- ・市民が、四季折々の自然や地域の魅力に愛着や誇りを持ち、いきいきと活動できるまち
- ・脊振山系や室見川などの豊かな自然環境を守り、次の世代へ継承していくまち
- ・多くの人々が訪れ交流が生まれる魅力あるまち
- ・多様な地域の特産品を活かした地域ブランドのあるまち
- ・芸術・文化や歴史、伝統芸能を大切にし、豊かな観光資源があるまち
- ・大学や企業と連携した活力あるまち

○地域の魅力を活かしたまちづくり

早良区は、南北に長く北部、中部、南部が異なる特性を持ちます。それぞれが持つ地域性や魅力を活かしながら、一体感のあるまちづくりを推進します。

◆～活力と賑わいのあるまち～ 北部

- ・文教・行政・商業・交通機能を有する西新・藤崎地区と福岡タワーを代表とする観光・情報関連機能や博物館、総合図書館などの文化・教育施設を有するシーサイドももち地区とが一体となった活力と賑わいのある更なる拠点の形成
- ・地域やNPO、行政との共働による地域の回遊性を持った賑わいのあるまち
- ・商店街や地元企業など、民間活力により活性化したまち

◆～地域の新しい拠点となるまち～ 中部

- ・地下鉄七隈線や福岡外環状道路の沿線を中心に新たなまちの形成が進み、商業施設や住宅が融和した便利で快適に暮らせるまち
- ・市民がお互いに支えあう自律したコミュニティがあるまち
- ・地域交流センターを中心に、文化・スポーツ活動や市民交流が広がるいきいきとしたまち

◆～豊かな自然を活かした市民の憩いのまち～ 南部

- ・脊振山系や野河内溪谷などの自然の中でのやすらぎを求めて人々が集う憩いのまち
- ・集落営農等による農業の活性化や、市民が訪れる体験農園、特産品販売所により多くの人々が訪れ、地元との交流が生まれるまち



<西区>

1 西区の目標

自然と大学の知を活かし 安全で安心して 生き生きと暮らせるまち

～「自然・市民・大学」の3つの宝を磨きあげる～

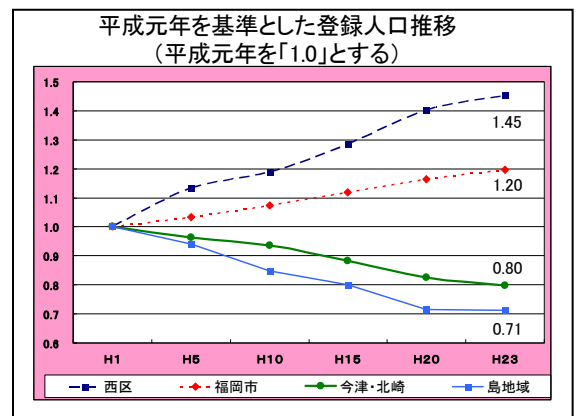
- 自然を活かし、環境にやさしいまち
- 賑わいと楽しさがあり、地域が支え合う、生き生きと暮らせるまち
- 大学の知と人材をとり込んだ創造性に富むまち
- 子どもから高齢者まで、安全で安心して暮らせるまち

2 区の概要

- 福岡市の西端に位置し、福岡市早良区、糸島市と隣接しています。背振山系から玄界灘に翼を広げ、能古島、玄界島、小呂島の3つの島を抱えています。
- 土地利用は長垂山を境に異なり、西部地域の山林と農地、東部地域の住宅市街地と大きく二分されています。
- 今津人形芝居や元岡獅子舞などの民俗行事が今日まで多く受け継がれており、無形民俗文化財が豊富です。
- 史跡も数多く残っており、生の松原、今津などの元寇防塁、吉武高木遺跡、大塚古墳・丸隈山古墳をはじめとする今宿古墳群や今山遺跡などが国の史跡に指定されています。
- 九州大学の伊都キャンパスへの移転も進んでおり、学生と地域との交流の輪が広がっています。
- 平成23年4月に「福岡外環状道路」の全面供用が始まり、「地下鉄七隈線橋本駅周辺・JR筑肥線九大学研都市駅周辺のまちづくり」も着実に進められており、平成24年には「都市高速道路の福重～石丸間の接続」による環状化や「かなたけの里公園」がオープンするなど、自然環境と共存し都市機能が充実した活気あふれるまちへ変わろうとしています。

3 現状と課題

- 豊かな自然をもつ西区では、都市と自然の近接という特性を活かしたまちづくりとともに、リサイクル運動やエコライフの実践などを通し、持続可能な社会を構築していくことが期待されています。
- 少子化・高齢化の急速な進展により、家庭、学校、地域が連携した子育て環境づくりや高齢者を地域で支え合う仕組みづくり、高齢者の自己実現の支援など多くの課題が生じています。
- 犯罪の発生をさらに抑制するためにも、治安体制の充実・強化が求められるとともに、地域、警察、行政などの共働により、社会全体で防犯に取り組む環境づくりが必要になっています。
- 九州大学の移転事業や土地区画整理事業が進み、人口の増加や新たな開発など、地域を取り巻く環境が変化していく中で、市街化調整区域では、人口減少や少子高齢化、公共交通機関の減少などの問題が顕著に生じている地域もあり、地域の格差が現れてきています。
- 地域コミュニティの自律を促すとともに、それらの市民活動を支援し、さまざまな地域課題の解決に向けて市民と行政が共働で取り組むことが必要になっています。
- 九州大学の伊都キャンパスは、平成31年度の移転完了後には、学生・教職員合わせて、約18,700人が通う九州大学最大のキャンパスです。そこで、大学の知識や多彩な人材を地域の人材育成やまちづくりに活かすため、大学と地域との連携・交流をより一層促進する必要があります。



4 まちづくりの方向性

○自然を活かし 環境にやさしいまち

山、川、海、干潟、島など、西区の宝（魅力）である「身近にある多様な『自然』」を保全・活用し、水と緑の豊かな都市環境づくりを進めます。

○賑わいと楽しさがあり 地域が支え合う 生き生きと暮らせるまち

地域コミュニティで活躍する「温もりのある『市民』」が、自らの知恵と発想をもとに責任ある取り組みを行う、自律したコミュニティづくりを支援します。また、西区の資源である歴史や伝統を活かした魅力づくりや生活のペースにあわせて楽しみながら行う健康づくりを地域とともに推進し、賑わいと楽しさのあるまちづくりを進めます。

○大学の知と人材をとり込んだ創造性に富むまち

平成17年10月の開校以来、順調に整備が進んでいる、九州大学伊都キャンパスの知と人材を西区のまちづくりの新しい「宝」と位置づけ、『大学』と地域の連携・交流事業を促進し、『大学』の知識と多彩な人材を地域の人材育成やまちづくりに活かします。

○子どもから高齢者まで 安全で安心して暮らせるまち

安心して子育てができる環境の充実を図るとともに、高齢者の知識や経験、自己実現意欲などを活かすくみづくりや安心して生活できる体制づくりを進めます。

また、自主防災・防犯活動や交通安全など安全・安心に向けての取り組みを、市民、警察、行政が一体となって、連携・共働しながら進め、市民生活のルールを守るモラル・マナーのまちを目指します。

